



ホ 2
4802
5



5本
5025
6

和字正港抄巻五
味

和字正港抄巻五

甲下のふ

遊録 いとゆみ

かかへんふにのく

こままろふ

はしあぐをとおはくハ物

末よりとくる本錦子ゆいれ

言念社 いふやのやう

植生 はよふ

わをさるふんふんふんふん

はよふ

和字正港抄

正

和字正港抄

水子
4802
5

冊 五 和
號 五
函 十

和字正濫鈔卷五

申下のふ

遊緑 いとゆふ

かろえふにり
せしこまうり

日本紀

出さし

通 はよさふ

うよまうし
はとあくをハおほくハ出さす

糸よてまうる本綿よ似れハか
くろふ丸。新撰糸葉集ハ遊緑を

言金社 いよやのやろ

埴生 はよふ

和名考ハハくんぎあといふ又和名
ハ倍棟の字を引用出るハ未詳但和

和字正濫鈔卷五

名の義ハ或説ハ柄ありて半を他よさし一とてむ故
呼^テ爲^ニ半^ト捕也^トとあり。捕ハ初^ニ洽^ニ切音ささるりあるか
くい
あり
濱木綿 とまゆ
万葉
ま名

搏風 ほふ

和名云辨色立成之搏風板
上音布悪及和名
如字揚氏漢語抄
同 説
これハ一とて通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ

し後ハ破風とてほふといふある。日本紀ハハ搏
風をちぎとあり。舊事本紀吉事記ハ氷本とあ
り。ちとハハ同韻として通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ
とあり。けふハ一とて通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ
とあり。けふハ一とて通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ

出を
り

祝部 ほふり

溢 はあ

日本紀。倍ハ物を控るをいふ
とこれハ原氏とあり。これハ
とあり。けふハ一とて通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ

て通せり。おらあつとあり。これハ
とあり。けふハ一とて通^ス。此ハ子本として鱈魚本
カッ
フキ

祝園 んふの

和名山城園相承部ハあり。け
このありとあり。とあり。

け此をいふものともあり。日本紀の崇神
天皇紀并ハ古事記のあり。天皇の一辰ハあり。

この溢の字一
崇神紀あり

法美 けみ

和名因幡
國郡名

新川 ゑみく

和名越中國郡名。万葉よ
ハヨシカケシトヨメアリ

新田 ゑみく

和名と郡國郡名。世よにツクシトイフ
けとる使らり。万葉よハヨシトイフ

め
に

屠 ぼり

和名け申
のふゆ

字のこもくといふまゝありぬるよあすへくねと
和訓のこもくといふまゝありぬるよあすへくねと
よ出
く
遠江 とほいあ

和名いさつあみといふまゝありぬるよあすへくねと
くといふぬ。又都阿切いさつあみといふまゝありぬるよあすへくねと
ハ阿ハ折文ぬ万葉才二十をいふ國の防人といふよ等倍多
保美しよめといふ倍ハ保よかといふ保ハ不よといふハ
いさつあみといふ國の字あり。いさつあみをいふハ
國ハ猪鼻湖といふ水海のまぐれかそあよ近江よむら
へてをいといふり。後名猪ハ湖と保といふあまのいさつ
あみといふ師孫孫師した保と湖同一聲と保といふら
をいさつあみといふり。いさつあみの貝乃出といふとやんよそ
こたつれく湖といふまゝありぬるよあすへくねと
いさつあみといふまゝありぬるよあすへくねと
名をいといふまゝありぬるよあすへくねと

訪 とも

吊 いふふ 西

近江 ちろりあ

和名かろのこし。略してあしこしのこしといふ。こを以の名としてよきといひて芳エラひなれちりといふねとまきさねあるり。本ハ淡海とかきくあうくるるを波宇切布なれハあしこしといふ。塩海なすねハあり

乳癰 ちよ 和名

圓座 わりふた

和名芝草にてあして物の蓋フタ乃やうるれと申ハ芝草蓋のこよふ付

るん。和名云孫愔曰菴徒口切上聲之。重此同云圓座。一云和良布太。圓草襦也。

○ ま名 未考 かふ 美草牙 又絹布

るしものやあれ
しり屑るり

蝸牛 かじり 和名

射干 かじりあ

和名一名鳥扇わさりて和名を付しり

上丹 かん

和名近江國坂田郡カミツ名なり。上丹生といふをかくいつめり

隱障 かくさ

美草かり

蜻蛉 かげろふ

和名又日本紀あきりといひ。羽の薄く遠て物のかきり

よ花かりあすれハ乳ろふ虫のこよふ付しりれどハかけろいしと絆ししめへれかきろふハ用るれと

別子心
みこえ

遊絲 かろろふ
新撰

いふふよかくあり。万葉よハ炎として精火としてかろろのかけ
ろろのもゆるさるまは精火のはのめくよ似れハ精火とか
きて甲一ぬよりゆえ。古事記ハ履中ハ天皇の御製ハ
ハ火をかろろいといふせたまつり。野馬をかろろゆる
しよろろれハ皆かろろゆん
しよろろいとおる一ぬよこそ

河内
かろろ
和名かはろろを皮字切
布るれハかくつめろろ

櫛 かろろ
和名けろろ一はろろ知れハ俱
縁よて佛手相といふ草のなれ

甲賀 かろろ
和名近江國郡名目也
紀ハ鹿深とかろろ

甲香 かろろ
和名
甲奴 かよの
和名備後
國郡名

竹淵 たろろ
和名河内國澀河郡名ろろ。ふ乃
字今ろろのろろいり。山城久世

和名同名あり。
塔 他盡
切 たよ
塔婆の略
院。塔婆ハ

又宰觀波の訛略の梵語なり。おろよ倍ハ塔とハ久興寺
天王寺とハよあるやろろをいハ塔婆と宰觀波
とハ本よて五漏よ刻きたるをいハし思つろハ倍るろ
昔よ塔とハ宰觀波としりろろ。凡石よてよ本よて

七五輪は刻てくねを塔といふるハ密教は限りて顯
 教の大小乘はすしてゐるさうなり。顯教は塔といふ
 と二重三重等四角八角等凡聖の階位よりありてその制
 限してゐるなり。大小乘のわかれしを飛鳥のころ。密教
 のハ密の塔はありうるとは又智悲の不芸の塔婆あり。
 これすまじく大日如来乃三摩耶形なり。二家ある故の
 肝心これあり。げんよ又痛を刻て供養して遊
 福するよあてぐるを弘宗し何とてくえおといふ
 ことありす

たつとーとーとーと入聲の合つ甲かよ等の
 字合我甲曹の時つしりおよぬすー

貴 たふとー
万葉 出づ

倒 たつとー
和名 獸也 上の倒のこ

狂心 たつとー

層 たつとー
和 右

犢鼻褌 たつとー

日本紀万葉和名一名ちひさきりのかりしとらよは出せり
 神中抄よしをりの目録抄とらあよかちのーアを
 うーとらふへりたよとてしかれらるるを思ふ
 たつとーといふ月のをを神よひひふせかなり。今も

あつまの人のたふさきとPより或人読りPまびたあざ
 ねを世よふんとしつるハ後者の係統をより方集亦十
 ちよも食者のよめるせちあよ馬よこころありしこかく
 し半よこころ。びさるこころはぐれしゆありしこころの
 時どろね。そねハありしこころこれ踏黙^{モク}るなり。布毛切保あ
 るねよつめてはこころしゆあこころま馬の人を踏
 るしすらしはこころをかけつれやんあよりしゆ
 しつり。禪^{ぜん}をかけしゆまもの似しれかろ名
 付しり
 たりや

答志 たり

和名志摩
 國郡名

田結 たゆ

和名但馬國
 城崎郡名

獵師

まじり

獵力勝切和名かりのし。これハ山
 一の獸をかりのしをこころしゆ

を音よひつれハ世よハすふしりしり考をわらり
 西行と人のとうよもよ舟とよやねしれハむしり
 のるよ

添上 とものかし
 和

圓郡名添
 下准此
 爪甲 つめのこよ
 和名
 子儀

よしつるハ甲ハかふる
 をこころしをさつるをさる

睡 ねり

拵 ねりりの本
 和名
 長能 人あがたよ
 和名
 八摠

の洲
よ月

閏月 うらふつき

牛蒡 うらまふつき

和名よ一名きたきこす世らよ
ハ音よいふ蒞ハ博郎切ごんう

とまへー。字しまの房よ信ら、保るなり蒞をあき
と和名よかれれハうまふつきハ下のふハうのこ
くいらてさハ美落^{ウツキ}なり。そそ蒞は他て老ぬさき
莖ハくつおよそしあれさそてかくハクハ付しり

衾 のふ

又たひ
和名

蛤 ねふ

和名けふり
すしにけり

いまのこ
ゆき

大肉 おふち

和名僕
伎四郎

名。おちうちを保字切
布られしかくしり

大市 おふち

和名猫
鷹四郎

保那箇中國窪倉那ハ右おほいらをいを略して
しおほらるるハきを彼國のそよまこころとれ

邑美 ねふ

和名因幡
國那名

蛸 くまふ

和名けふり
信四郎未考

欵冬 やまつき

和名此和洲のそこんハ蒞なる
下のふうのこしけおよつき

て愛伝あり。醫家よ蒞の塔といふおを判。本草の
圖をよし似るうすのこしれし定かし。和名
よ園菜部よ蒞を出一て崖禹錫ハ合衆をけりれ
しゆし欵冬といふす。欵冬ハ老部よふらハ牡丹蒞

等のほよハ芭蕉鹿鳴草等の中よ並て二名ハやまやまの
集ふ集ふ山吹花とあれハまさされるく山吹と存せ
られり。歎きハ多き花さくおるれハ山吹ハあはれ
るもの。かろくろるるるるるるるるるるるるるるる
ま〜れんおほつられ。公任ハ朗詠ハ山吹ハあは
れり。山里のりの世よつととして危のか〜り〜と
は種りりのを山吹とてゆ〜り〜承傳り。
これハ秋の末きの初芙蓉のやう〜り〜承傳り。
花さ〜り〜。咲散を信〜り〜
しるや〜り〜。知傳〜り〜す

萬葉集 まんろふとぬ 豆田 まあふ
日本紀 和名

下臘 げらふ 臘來 盍切 今日 げふ 万葉才ふよ
ハ〜り〜

めり。こハびるり。あ〜り〜と通す
げ目なり。げ〜り〜通〜り〜

狭布 げふ 音るり。つ〜り〜ハ〜り〜
を略〜り〜。玉篇ハ狭ハ下甲切

とあれハ音カふるり。げハ吳音ハ陸奥ハ狭布詠あ
〜り〜。右ま抄抄よ〜り〜ハ略指なり。ま〜り〜ハ部
る〜り〜。彼國ハ〜り〜布を出入るよ〜り〜
の〜り〜。乃ハ〜り〜。ぬの〜り〜。文選〜り〜。弘仁
元年官符ハ應陸奥國浮浪人准士人輸狭布事云〜り〜
人調庸全輸狭布至于浪人特進廣布織依之勞難易不同

ふりよさるひるわ。うきものあしりよはゆりて。ま
うをううふりのあふあふのまを折よひるざり

城飼 きさふ を以て國郡 名。和名 公任 人 右 きんたふ 任

塩よ訓 同日 今日を けふと 明日 きみのふ

ひよよ合せてんぬるまよまよまのいといふ
まよまを略してしをまよま通ハせらるる

夕 ゆあへ 夕顔 ゆあへは

長庚 ゆより 和名夕 星万葉 結城 ゆあき 和名下野 國郡名

往反道 ゆまうふら 万 葉

英 らつうま 和名。下のふ 葉

十帖 他 類 切 ちよぶ ちよ子 戴 ちよま 和名。但し あり

はるいままいさす。 かつらよの日記しあり 執心 ちよふしん 執子 八切。

ちよねーしりよまよしげ字 の音まてりあつるへー 衛府督 ちよふのか

ふの字うしやゆり 國府よ冷しあへー 思 らよ 万葉よありよ ちよと略して

あまのこりよとよめ
り日本紀よしあり

以上依舊假名遣歌酌以下今加

むとらとまきつる詞

凡うわがむかひくはあありて。濁まらばとくよめ
字次でうけ。まめしの之字次でうられぬ。このむらさ
わよ。口をさあきまていぬむかひの
やうよまらるなり。を介はまらるじよ。

郁子 むへ

和名

諾 むへ

若家とあまよ
この郁子を

傍てうせけつりあよむへと知れり
日本紀よくめ万をくくべとあり

圍人 むまうい

和名

厩 むまや

和名馬
居るり

孫 むまのこ

和名

離孫 むまごをい

和名甥の子をいふ。但女を
いひまのこめらといひり
に國よ味細^{キカラ}あり。牧をいふ。ゆりて名付
しつるを^マと略して中のきといひり

牧 むまき

和名馬城
のこを

祖母 らうい

優婆利 らうばり

優婆塞 うはくく

附優婆夷 うはい

荊 うりく

和名又む ばくごし

奪 うとふ

馬 うま

日本紀万葉に於てうまなるなり。万葉才二十よむまといふれとそれハ赤狄なれハ

そのより一なるへー。みーくまをよあまよみとらうとしかつらよめて清くして知る。和名よハおほくむましかき又うまよとしかつら。馬何く馬これよ清くく。

馬調 しまのせ

和名

蕃息 うまひる

日本紀

生 うまのり

しまのりとすゆれとらうまのりとかく。うまのりといふ時むしと

鱧腸草 うまき

和名今馬來のうまよ名付たり。狼牙をうまよつとまきといふし和州のうま。葉よ來禽あり和漢相似たり

美 うま

日本紀味よる。すまをいふ

君子 うまのり

日本紀。うまき人なり。播紳をい良家をいゆく。匹やり

梅 うめ

和名よ和名皆おる。古今集物名ようめを歌よてあまうめよつひるなり

入るれうまるとあり。喉の赤きまはうりり。をなま
 かりてとてうめりかしてとてせられし。まじきま
 うめとのこかりを今うむめとのこせする。い
 てうめのかく人あり。愛月のまは付く。うめを
 埋木 うめれま
 うつれ木の略るれむりれま
 とせうううううううむと
 うとむとかがよれ
 うよせうの略るれむりれま
 をなんかきううなと
 いふたういのまは
 るんをせし出さす

抱

ううう
 日本紀よ又むい
 う。ま。う。い。う。う。

鱸魚 じふかま

頭下者也とあれハ胸鰓アキといふ。まは名付り。鱸鰓
 大用者也とあれハ鈴鰓キをいふ。て思ふ。

五茹 じふさき

今しさいふあり。これを姓氏録よハハキとかれ
 あり。五茹よ付く。あつる。あつる。やみ。くん

虫

し

律代紀よ虫流とてう。う。う。う。う。う。

ハ大くこの史を
はりよまき
しよ
めり

庭
ひーろ
るふよ
うーろ

らとぬとかよふね

黒玉 万
葉 ぬいたま

日本紀古事記万葉集
たよるなり。是らる家業よ

二首ねしたまよとかくり。後よいらしたまよとかりて
天徳の合の判何よまき我んとかり。今ハしとまよ
しとかくり。梵字よ付ていんとかり
ぬむ乃と字通らるにゆきあり

漆
らる

氏よ漆部をぬりへとらあり。こたよ
よりて思つたよ塗汁といふ。略よてぬ

るといくまを同韻よて通
てうらるといふありし

大人 うー
日本紀よ於郷をいんをいうーと
あめらるん今のぬーといふよ甲く

んゆらぬよ
こよあす

むとぬとかよふね

珠海 ちぬの
万葉 讃岐 さぬま
けい
けい
けい

さうんのををかく用いけり。け類考久くはわや
りりへ。後日平紀は後波を紗抜ししかり

三瀕 みじま

和名よん後国郡名なり日本紀は
水泥をるしけ比の良人なりわな

安房国朝夷大瀕 於保 女萬
れ瀕をぬきしとあり

むとりとかう小類

鯉

とむ

和名倍よと
しとらり

懇

ぬとらり

一万葉懇
勤をと

同くありきりぬんころしつあれはかきしは寸
へてやうよとありきりさ。但詞はいとむ思ん

るしつよをハ除く。これハ美葉ハ将言将思をしかけ
りねハ将来よて末ををてりし詞なれはげよしをある
むりーのこけつしりげねしころしつあれはかきしは寸
よ山麦の根しころしつ川柳の根しころしつ
てすふしころ根の字をあやし。さかきハ如根の義と
おほしころ如をしころしつ。の古流しつ
日本紀よし万葉よしありころしつ。のあやハ根をを
くさしつ。てかきしつ。てぬれやうよありねあり
よあをころしつ。は思つてころしつ。はすらすらめ
しころしつ。かきしたしつ。あさしつ。――
奈毛 ありし
これハ後日平紀書の宣命よおほしつ。こ
しつ。ありはよとれんかきまんかき

いふ教のるんちり法花懺法よ至心懺悔の至心をとら
しむる通一してあり南無をなむしとていふ
但一とハ能るり刑あるのやうよと力しむるおほ
つらき行成りの比るの假名の跡まゝをなむるよき
たゆゆるおほくしてよむを利かむよむを利かむ
まゝなるあれとて人の假名よとてつらきこと
を後ハ假名よまゝするすらよや和泉武アウとよ人かぶ
んとしきつせし教がたゞくたくけのむらゝのこ
をばあをんをしとんまゝせしとんといふをいひ
おしなうしとて先達しなとちよとていふたういふ
のこちとてあつてんとんまゝをんを假名を避
てかけしをいふとていふとていふとていふとていふ

らり

大已貴令 おほあか

いものしと

大汝をかきくおほあか
一 大完持しかきくおほあか

いり

鰥夫 やむを
和名ま
よちと

めといふは海へハちをい
いりいりすむ男なり

寡 やむめ

和名やのめなり
をいりすむ男なり

三室山 こむらやま

こ諸しかきく
こむらやま

げららよーあり釜の口をあらひーらひてなぐ
てしりあをさるあてしけりしてハ冷な

諾

むく

日本紀よハ
うめあま

訓霸

くら

わ名在伊勢國
朝明朝以名

訓覓

くらくま

わ名在筑後國
高文部以名

反轉

くらくま

万葉わ名くらくめく旅の名を松本
あよとくう寸をくらあきと

くろりとのあつりハ乃字の佳
知くさしとこれよーうてせ

海連

くらくく

日本紀よ六端出之繩を
くらくめさるしと

天皇

すくらま

すめろ
きし

めとやゆらへり

並

あつよ

万葉假字なりあの御は花ららま
よるしよむ類なり万葉あよ苗とい

ふりーをもちてよの字をくすよめとあり
ハるえよとやゆらへりよいんから

浮

うく

むよまへふぬ

葬 ころうあり 訪 ころあね このふかり
むよけり

帛 ころあね 山 冠 ころあり

蒙 ころあり 蝸牛 ころりあり

傾 ころあ 昔ハみをとほりていひくろり
あをあよ夫の字をかりり

悲 ころあふ 戲 ころあれ

樂 ころあふ 合歡木 ころありのま

眠 ころある 舐 ころある あかり一
まし又む

とよみ人
しあり 浮 ころあ

苦 ころあふ 煙 ころあり

燭 ころあ 一 撰 ころあふ

伺候 ころあね このふ
をいふ 侍 ころあふ

鎮粉 ころあ のけり お
名

○ まな 未考 雨風ましの隣まより吹中のみ
れ約しすもめするもつふそむいぬらふらふらふらめ
はるくさむむらあわこれのみよか
ふくくらすむむむとかくくまを

みよまろふひ

辭 いさひ 悲 かきひ

樂 たのひ 浮 うひ

飲遊 うけあそび まな日本紀 假名万葉

苦 くるひ 撰 せんひ

○ まな 未考 下南野を編日野としりひ。鷄をとみとしりひ。座ハ
和名よにきくくならよあつらふハのまきびといひ。方々
よ悲を可奈之備とし絶深としきつれえ。わ
を院とてなりのひをたのひとなす。皆通
してまべ。まのこらむむへうひ
こハ同韻の隣近よてゆく通をらるる

をとやゆらふ

仆 たら

斃 たら

障泥 あかり

扇 あかり

あきま

あきま

仰 あかり

あきまの
あきまの
あきまの
あきまの

あきま

葵 あかり

あきま

擦鬢 ぬか

神館 ぬか

髪際 ぬか

頭殿 ぬかのとの

疊紙 たら

手水 たら

をむとりのお少

勝臣 たら 古今
他名

神戸 たらへ

上野 たら

上総 たら

仲文 かうあむ 貞文 さういあむ

公利 きんじく 公任 きんたふ

假名よたふひていふ類

蝙蝠 かんぼり 俗かう 麴 かんこう かかん猪發

かくん付んぬ俗よハこれをかうせしむり。猪ハ餅の下よ
之四聲字苑云猪 字乳反與襦同 今案訓買布 食上生百也大かき而平よあひ
て地のかうといふハ
黴の字ろふといふ

申下よ濁るち 恥をこころをいり聞をととら
とらかやうよ通してあく

をハおとす。
下宜效此

紫参 ちくのはくさ 和名千葉参のさくよ名付
ころん下のち清濁可る

癭胗 ちくちむ 和名又
ちかろ 齷齪 ちくく

伯父 をち 菖菘 かうしう

檄 かち 梶ハ和俗の他
る字ろふく ○ ま名
未考 ちくちり 字俗
於此

其名
亦考

げらめ

藤 ふら

蘭 ふららま

蒲公草 ふらふ

和名又
云々

柱 こしち 第 榎

淡路 あとち

名付の
ハ吾

半 取るわ。陰陽二神大回をうまんと思ふ。めくろよ
小回をうめれが系恥るわと思ふ。あすのなまら。

舊事本紀
又んくわ

鯨 あち 和 名

味 あちばい

菰豆 あらまめ 和 名

紫陽花 あらさか 万 葉 無端 あらきさ

射塚 あむつら 和 名 鰕魚 あさち 和 名

三十 みそち 茶師寺の佛足石の傍のちよこ
ちあまらあつらのすこいといふ

彌蘓知阿麻利とあり又日本紀の述しおれ ヨシキイナチ
是准此みそちと云へうす又人の年をいふ時ハみそ
ちと云へちといひおのねよハみそと云へといひて
ちよそちと云へハいふまじきやうと思ふ人あへ
佛足石の贊のちハ三十二相をみそちあまらとあれ
よらりの物のねまわらてりあへ又二十をみそち

鹽 ば
和名よまば
しみて居る

土師 ば
氏なり。又地の名よおほし。塩師をり。塩
はくさまくのを他もるあり

薑 ば
鰻鱺魚 けいしを

虹 けい
彈 けい

初 らめ
断 ば
和名

燈心 とうしん
和名 俗考
戸母 日本 紀
老女 稱

閔 げん
鑰石 ちやくしやく
和名

鱸魚 をろ
俗よをろせといふ山の外
よをろせといふ流あり

吳茱萸 かばく
和名 俗考
李衡 かん
和名

憔悴 か
樵 けい
和名よのハ
戒ぶ。俗よ

のり。お國よ吾の附をくおるなり。
仲正のちよか さいら といふあり

膜 たる
和名肉内 薄皮也
○ 未考
たる

しつもの考かへねとくくろくとりあそしあれハ
たちらろくくあ〜と思ひて〜よあす

躑躅 つー 旋毛 つー
馬 和名

飄風 つー せ
日本紀。旋毛よありて思ふ
よ吹まのすをりよあす

辻 つー
旋毛を以倍よつーとくくせしつー
よて〜我〜通すへー。文字ハ十字の

掘 日本 ね 古
紀 日本 ね 古

紀よ天香山之五百津真賢本矣根許士尔許士而とか
れ。万をよ〜その春い〜て極〜ふや〜のよあす

梅のたさささ〜よ〜けい〜て〜を伊許自而とか
仔ハ發執の洞ありけよをたささ〜よ〜れ〜らよあいよ
〜年ね〜てとあり。士し自しふをハ隔りて用
なり字なり。きよ〜て〜と〜もむら〜を
とよをちり時か〜こ〜へりちり。まのせハを
義通す。又通すらぬよ本義のからりて情〜らるるお
ほ〜。ねれ〜ハ〜ハ〜らと〜古執よてか
〜よりちりよ通すと〜。ね〜の〜り今
の世隔〜す。〜り
てあ〜く〜す

木薬子 むくれよのま
和名よ蘇敬本草注を
引て〜。薬其子也

とあれと催馬樂
よろーとつち

綱代 あーろ

雉 きー

織 ちーらま

蜆 ちーま
万葉
和名

羊 ひっー

璫 ちーま

簀 あーろ
和名

短 ちーろ

縮 ちーむ

衛士 ちー

白鮮 ひっーま

聖 ひーま

日知乃我るり日ハ此國よつたしと
むんよほめていふ河知ハお初りなり

すまのちち万葉
日知とからり

桃蠹 ちーのむ

和名上の蠹のトよいしうこ
とー。桃く虫とさるへうこ

中下よ濁らつ

鱗 いそろと

出 いっ

威稜 いり

何 いっれ

泉 いづみ

恥 ちり

羽束師森 はつしらのり

延喜式神名帳
よ山姥國乙訓

郡よあり。和名よん羽束とかきて師をよめ付て
名るなり。又和名よ接は國有馬郡よ同名のりあれとも
アといふす。乙訓郡よあり大社をよていふるさ
しるさあをよむはの國といふはあれよ山城よ
定む
へし

○ ま名
未考 はつれ

弛 らゆる

縻 むら

酸漿 ぼくづま

和名かく
ち日本紀

百部 ぼくづま

燐 ぼん

和名

達 とつ

日本紀
くるりき

く集

千 ち

下のちん
つちのり

よかより
てんげへ

近 ちか

叩頭 ねづ

額衝なり。額を地よ
つきあつるなり

才 さい

煩 さい

鞅掌 かつゝふ 文 葛 かつゝ

髪 かつゝ 和名 女具

鬢 うゝ 花

潜 かけく 上野 かんつけ

萬 よろり 鸚 たび

○ 和名 たり 陽しそて瘡をた

○ 未考 たり つるあしりよ 尋 たつぬ

女貞 たつのみき 和名又い 携 たつぬ

鶴寸 じゆき 万葉たつこりしれ山申るしよあ

くめしし〜るるうへよ歌の字をか

○ 未考 そちぢ そち質信那の民のしめよ田をさり

ろく寸物を信那といふといくとん信よ強くハ振名とそ
うつとこそそとへくれまの國史を考つるよ信友を強
らま寸草ハ今このやうよ職をしぬめすりて
は月の信友ハたまのし寸又うらる人

褐 つつり
つり
よ名つく

綴 つつり

黒葛 つつら

續 つつり

約 つつり

薺 なつり

泥 かりむ

隨分 かりむ

白氏
文集

○ ま名
未考 なつり

腦 かりむ

鯨 なままり
和名

歷易 なままり

和名

鶉 うつり

埋 うつり

躑 うつり

後よつくまふと
いふとけつむるを

大秦 うつり

雄略天皇の時時秦酒ソキ公キとぬ
しを禁ふ應よ後て奉つとらる

なよ氏をうつりまふと賜ひくらの埋しまふとらるる
つり六膚をあらたむらるるなり。文字八日本を
まふとらるるはつり。この義
日本紀并右流抄をこらるるよらん

牛膝 かのつり
屑 かん

なりり響の字をしも月音のよありてハあーを一字ある訓なり

杵築 きつき 出づ 譲 ゆづ

弓弦葉 ゆづる 系 附 ゆづ

感 めり 日 希見 めつ 日

瑞 み 水 みづ

乖 み 自 みづ

瑞籬 み 鬢 みづ

英 み 倭文 み 古代

賤 み 右未考。みづる。みづる。賤。みづる。を布衣といふやうよこの倭布を衣

とららぬのなれハ衣をみづる

靜 み 沈 み

滴 み 襪 み

のぬ八ま
ウリす

氷頭 ひとつ

○ 名
未考

ひらび

つぎノ、まよひちりめとつよま
よかよほく假名かくるるへー

蹄 いらつめ

水雲 ちらつく

へらろくろりしりま
を下のものを略する名

物集 ちらつめ

和名山
深田乙

訓那
の各

鏝 せまよつ

和名
せに

るん
なり

中トよ濁る寸

唐棣花 くるね寸

系系。朱華を日本紀にみるね寸
とよめり。郁子ハ之の名。和名む

へしりふ郁子に
ハ郁子の孩なり

必 かなつ寸

カクハ不假
の略を

數 かつ

腴 つらすり

和名
野王接

腴魚腹下肥也
土摩の義ある

鼠 ねとら

棟 ねすこりらめ

和名みをとる
ねすこりらの本とす

○ 高名
未考

むす

むすむすむすむすむすむす。無手
と云はるは俗に伝るるなり

渦 うす

雲聚 うす

和名
馬具

髻華 うす

日本紀
又細

野薦 のす

神代紀
すハ

篠の數
なり

強女 おす

古流
おす

葛 らす

箬 やんす

假殿 さす

日本紀。是今の世に後敷し
かきくさんーきくりおゆる

佐字信
如此

瑕 きす

玉

疵 きす

衣摺 きす

河内
四置

河郡村名あり。崇峻天皇紀に物部大連昇^テ衣摺^キ杵^キ枝^キ間^キ
臨射^ト如雨^トこれハきすのえのきのまのまのほりてさ
るを今の中^キ越^キのおら^キるなり平氏^キう太子^キ傳^キは
守屋^キの石^キを^キて^キ天^キ王^キもへ^キ寄^キ附^キた^キま^キの^キ甲^キは^キ河
内^キよ^キ衣^キ摺^キ地^キを^キ
等^キあり^キこれ^キなり

彌 ゆみす

粒蛭 みす

附白頭粒蛭
みす

あどろごうおむらへはろひきといを
さめよてこまきましくおしるるるり。今出る
え種よこぬりひがひてまきまへーん
ふりー下よある時上の音便まがふるお
ほーいよとゆふふとほふとあとなふ
かあここふふとやふとふとさふあふ
とのふおふとあふふとりよごれさり
皆うごりーておー

あはげふくひのつらりるれろのい
つとね後よおいてよよふことあ
濁らるりかきさけこさーすせそだ
ちつてと。はひふへち。サ字なり。和語よ初
より濁るるるる。斑駒斑駒 日本 記 銭セニ此類すこ
あれど後よつらてのるりなるる
はひふへは。サ字ハ音便よりつては濁
乃乃の音ありいゆる。天半葛伯。玄實

年一をばりてとく一年二年よりあふ年
よて皆しをいひて。矢橋をひかりし
やもせしとあ方よしよし是よ物とら
る

子日六日の字漏りていふまゝに
くれと漏るはを突るなり。清てい
ハ考よしし何れをいふくしあ
へ

本董をむくけしつめ六本モク薬子ランをむくれよ
ドの本本工歌をむくめしと
ふよを我るなり。純波るれと
ある純波よ何れなり。仁阿反奈るれと
めていつり。あをよを我る在ナル春日尔有ナルとやう
よかぐり。みしあれんし何れをいひ
んすまれ。よしあれかくしあま
かくまれるしとよ我る。毛阿反末るなり。およ

假名よて音をかくるは終るはいカ音ハ假名
 の法の〜〜〜〜〜ゆうかやうよト〜ゆう
 リ〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう
 るぬよ迷ひや〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう
 等のふり〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう
 ち〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう
 一の文字よ〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう
 ちやう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう〜ゆう

ゆるゆり。法師は法ハ入あうよて漢音ハ〜ゆ
 吳音ハちゆるれを假名よハち〜ゆ〜ゆ〜ゆ
 き理るれとぼ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
 一し玄葉察をち〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
 法とゆれハ入あうるち〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
 一甲ハかあるるを和名よ凡甲をよゆめゆ
 ちゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
 水ハ玉篇よ戸癸切なゆれハ音戸るるを須以

とのしつゝのそとにあらくし
 寶ハ玉篇ハ補道切とあれハ音波宇るれど
 吳音ハ保宇るるのや。まふふハ保ハ用ゝり
 方ハ甫亡切もて吳漢共ハ波宇るれいよや
 波ハ用ゝり。吳音ハ附ゝる字去あくれハ吳
 音ハ妻ハハ知ゝり。古書を考てあ
 きるの他ハ寶の字ハあすゝあハ
 一去。入字平 四聲乃あをばりこゝかくれ。

例をいゝ。公コウ平。孔コウ上。貢コウ去。谷コウ入。かくのこゝ。
 平あゝハあゝのなまあゝハはらゝゝ寸一文字
 乃ゝゝゝゝて長ハ。とあゝハ短かくて
 まゝゝゝのやれ。去あゝハなまゝゝゝあゝを
 まりや。入あゝハりよゝゝゝゝの音あゝて
 切直るゝり。蝶テ。鐵テ。宅タク。七チ。敵テ。け類
 なり。若梁ニホ。帝テ。朱シュ。弁ベン。とゝ。片ヘ。はゝゝを
 るゝのや。いゝ。時ジ。忽コト。天子テンシ。萬福マンフク。也。谷コ。へ。

くるとりや。比類するまに事しるなり。平あつと入あ
とよ短あつち。高あつて居スウるなり。天下る事と
いふ天ハ平あつ乃短なり。客傷る事といふ客ハ
入あつの短なり。平あつの短ハ字の左乃申なりと
よあつをささく入あつの短ハ字は右の申はと
よささるなり。比類の儀よていふと天ハわりと
平あつるなり。天といふ是よていふなり
天地天下天子天をささくといふ時と申す。天

門あつ又天文の博士なりといふ時ハを便とあつあ
り。天王天女天神天台天狗なりといふ時ハ去を
るなり。けふとハ中華なり。けふは只比類の
習ひなり。平よ去のこあつは孫皆これよ流
らへて知へし。和流よと平よ去のこあつあ
つ一字假名なり。日ヒ 插ヒ 火ヒ。毛ケ
。躰ケ 食ケ 二字假名。橋キ 端キ 箸シ。
弦シ。釣シ。鶴シ。此類よて心得なり。

